

総合計画審議会 会議経過要旨

会議名	第4回木津川市総合計画審議会		
日時	平成30年6月6日（水） 午後3時～午後4時30分	場所	市役所5階 全員協議会室
出席者	委員 ■：出席 □：欠席	（公募委員） ■尾崎 忠教委員、 ■西村 正子委員、 ■森田 雄巳委員 （識見委員） ■今里 佳奈子委員、 ■真山 達志委員 （委員） ■今西 勝美委員、 □中崎 鉄也委員、 ■久保 恭子委員、 □小松 信夫委員、 ■中川 雅永委員、 ■西井 貴信委員、 ■福井 さなえ委員、 ■福井 康裕委員、 ■松本 耕考委員、 ■岩田 高明委員	
	その他出席者	株式会社地域未来研究所 田淵 誠一、貞松 純子	
	庶務 （事務局）	福島政策監、武田マチオモイ部長、奥田学研企画課長、 茅早主幹、藤木主任	
議題	1. 開会 2. 議事 （1）報告事項 ①これまでの審議会結果 （2）審議事項 ①第2次木津川市総合計画 基本構想（骨子案） （3）その他 次回審議会開催日程について 3. 閉会		
会議結果要旨	1. 開会 事務局から開会を宣言した。 山本勇人委員の定期人事異動に伴い、岩田高明委員の就任を報告した。 2. 議事 （1）報告事項 ・これまでの審議会結果 資料1に基づき、事務局からこれまでの審議会の議事の流れと前回審議会の結果について説明があり、確認した。 （2）審議事項 ・第2次木津川市総合計画 基本構想（骨子案） 資料2に基づき、第2次木津川市総合計画 基本構想（骨子案）について説明があり、案のとおり決定した。		

	<p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回審議会開催日程について 第5回審議会は、平成30年8月下旬に開催の予定。日程が決まり次第連絡することとした。</li> </ul> <p>3. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p> <p>◎会長</p> <p>○委員</p> <p>●事務局</p>	<p>1. 開会</p> <p>会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの審議会結果 会議結果要旨のとおり。</li> </ul> <p>(2) 審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2次木津川市総合計画 基本構想（骨子案） 会議結果要旨のとおり。 なお、主な意見・質疑は次のとおり。</li> </ul> <p>○言葉の使い方について4点ほどある。将来像の説明に記載されている「関西文化学術都市」は正式名称にすべき。2点目は、将来都市構造図における拠点、ゾーン、軸の考え方の「観光・レクリエーション拠点」の説明で、「恭仁京」は「恭仁宮」が正式名称ではないか。政策の基本方針の取組みの姿勢における「視線に立って」は「視点や視座」のほうが良いのでは。また、「地域資源や人材などを活かして」とあるが、人材を活かしてという表現を市民に使うと上から目線的に感じるので、他の表現を検討していただければと思う。</p> <p>◎修正すべき点と表現を工夫してはどうかというご提案があった。視線は見ているラインなので、視点、観点、目線など言葉遣いを検討いただきたい。人材については、このままでは決定的に問題があるという訳ではないが、人材という言葉自体が人をもの扱いしているという意見もあるので、「人的資源」、「人財」など言葉遣いを少し検討していただければと思う。</p> <p>○「自助・共助・公助」は、阪神淡路大震災からよく聞くようになったが、防災や災害関連の役割分担で使われる文言だと思うので、これを総合計画の柱として使うのは個人的には違和感がある。木津川市は山城南部地域で唯一の市であり、学研都市という最先端を抱えている市であることから、「スマートシティ」を目指してもいいのではないかと。スマートには賢い、活発、高知能という意味があり、次期総合計画の10年間は、さらにAIやIoTをはじめ技術革新が進む期間であるので、先端性を取り入れたま</p>

ちとしたほうが、市民にとってはこのまちに未来や夢を持ち、このまちに住んで良かったと感じられるのではないか。

- 「自助・共助・公助」については、まずは全ての人が自分で自分のことをする、それでできないものは協働して近隣や地域で担い合う、それでできないものは公共が担うという3つの段階で連携していくという位置づけを行っている。今後のまちづくりにおいては、厳しい財源のもと各種サービスを展開していかなければならないので、市民の力や市民のまちづくりの取組みを支援しながら、活かしていくことが必要であると考えている。また、防災の視点だけではなく、子育て、介護においても重要であり、「自助・共助・公助」という文言を加えている。

◎ご指摘のとおり、「自助・共助・公助」が一般化したのは阪神淡路大震災からであるが、最近は介護や子育てでも、行政による公助だけでは十分なサービスが提供できない場合に、共助が意識されることが多くなっている。「自助・共助・公助」は、防災分野だけでなく、広い意味で使われてきており、使い方としては問題がないだろう。また、この10年で社会が急速に進化するであろうということで、これは、まちづくりの基本原則というよりも、まちの将来像に関わってくるのかと思うので、そのあたりに新しい概念や言葉遣い入れることも工夫次第であろう。「スマート」という言葉は最近よく使われており、頭のいい、優れたといった言葉本来の意味で使われており、候補としてはあり得る。

○先程指摘のあった「恭仁京」であるが、平安京、平城京があるので、逆に「宮」よりも「京」の方がいいのではないか。平城京と平安京の間にあるので、「京」の方がグレードが高そうではないか。

- 文化財用語としては、「恭仁宮」という言葉を使っている。そのあたりは文化財担当課に確認する。

◎「京」になれば、かつて都であったという意味を持つことになるので、市内部で確認のうえ、文化財としての表記に揃えるということにしたい。

○学研都市の開発エリアには様々な研究機関が立地しており、世界トップクラスの脳科学分野を筆頭に高度な研究を行っている。国においても超スマート社会を目指すこととしているが、けいはんなでは「超快適スマート社会」を目指し、そのために脳科学とICTをうまく融合した社会づくりに貢献するとしている。満足、達成感、安心、やすらぎ、感動、連帯など心の豊かさの向上に着目した新たな技術サービスや商品を開発して、住民の参加意欲や関心も高い地域であるので、人の心に寄り添うような次世代型のスマートシティの実現を目指し、国の補助を受けて、京都府や各研究機関との連携で研究を行っている。研究分野は一般市民にはわかりにくいですが、説明責任を果たしていきたい。

◎木津川市においては、市になる前から学研都市がまちづくりの大きな位置

づけであったが、今回の総合計画では、あまり前面には出してはいない。学研都市に頼ったまちづくりではなく、学研都市も活かしながら市独自のまちづくりを進めるという主旨であると思う。しかし、学研都市の研究開発は最先端であるので、それをまちづくりに上手く応用する、活用するという視点がもう少し入っていてもいいのではないかと思うので、検討いただければと思う。

○市の方向性として、子ども・子育てに力を入れるということであるが、人生100年時代であり、健康寿命を伸ばすということもクローズアップされてきており、高齢者だけでなく、現役である期間も伸びてきているので、そのあたりの要素を盛り込んでいただければと思う。まちづくりの基本原則は、支えあい、助け合いと市民の参画ということであると思うが、参画と参加、情報共有という要素が重複して記載されているため、読み手にはわかりにくい。少し整理した方がいいのではないか。基本方針については、基本方針2と4に「文化」が重複しているので、どちらかにまとめた方がいいのではないか。また、基本方針3と6に「共生」が出てくるが、環境分野での「共生」を別の言葉に置き換えた方がわかりやすいだろう。

●まちづくりの基本原則については、市民と行政の役割分担を重視するという一方で、参加・参画が重複してしまうこともやむをえないところではあるが、可能な限り精査していきたい。

◎まちづくりの基本原則の3つの柱は、非常に共通しているため、それぞれを説明すると同じ言葉が出てきてしまうことになる。自助・共助・公助に基づくまちづくりをするということは、市民と行政の役割分担があるということであるので、同じことを繰り返し言っているように感じるので、少し整理が必要であろう。

○第2回審議会でも話をしたが、行政もひとつの会社だと考えれば、一般企業を目指すような利益を求めるのではなく、地域や住民へのサービスを充実して住みやすいまちをつくるのが目的であり、まちづくりは行政が先頭に立って引っ張っていくものだと思う。そういった点で、木津川市は京都府南部の相楽4町村の行政のリーディングカンパニーになるということ盛り込む方がいいのではないか。最初に新しいものにチャレンジしていくということは強いし、学研都市の最先端の技術を取り入れ、行財政改革を行い、どこよりも新しい取り組みを進め、日本を、相楽4町村を引っ張っていく市になれば、このまちに生まれて、このまちで生活して、このまちに住み続けたいという気持ちが必然的に出てくるのではないか。四国の葉っぱビジネス事業のように、新しいアイデアでまちづくりを盛り上げていく必要がある。また、可視化しないと市民には伝わらないので、例えば、市役所にロボットがいると、新しい技術をまちづくりに取り組んでいることが分かりやすい。そういったことも

検討していただければと思う。

◎山城地域あるいは日本全体をリードする行政であり、まちであるという意気込みや考え方をどこかに盛り込んだ方がいいのではというご意見であったが、市としてリードする気があるのかどうか。

●木津川市は京都府南部の中核都市でありたいと考えている。総合計画は市民の便益を考え、作成するものと認識しており、広域自治体を引っ張っていくことを、どこまで総合計画に書き込むかは議論が必要である。ただし、広域連携を進める中で木津川市がリーディングカンパニーであるべきだと考えている。

◎ご指摘の点はもっともだと思うので、前書きでもいいので、そういった意気込みを書き込むチャンスはあるだろう。手堅くまとめるより、頑張ることをアピールする計画の方がいいと思うので、極力そういったニュアンスを計画の中に盛り込んでいただければと思う。

○木津川市は子育てに力を入れているというのが伝わってくるが、高齢者が安心して暮らしていけるまちという言葉をもう少し入れて、福祉にも力を入れているということがわかるようにした方がいいのではないかと。子どもも大事にするが高齢者も大事にするということがわかるようにしていただければと思う。

◎総合計画を策定するに当たって、まちの将来像の方向として、子どもを強調しましょうということで皆さんのご意見がまとまったと思う。ご指摘のように、子どもよりも高齢者の割合が多い時代の中で、高齢者はどうなるのかという疑問や不安が出るのも当然だろう。子どもも高齢者も全ての世代がハッピーになるというのが基本であるが、施策展開の中で重点をどこに置くのかというと、この総合計画では、子どもにまず視点を置いて、まちとして子育てに取り組む中で、高齢者が子育てに協力することで生きがいや健康につながるなど、子育てを核にしてみんなが元気になるまちづくりをするということが読み取れるように、もう一段踏み込んだ工夫をする必要があるだろう。

○基本構想の考え方が、骨子案として文書化される中で、具体的イメージが浮かび上がってきたように思う。スマートシティ、リーディングカンパニー、学研都市の話など、ご意見の点について、文章の様々なところにニュアンスとして盛り込まれているので、そういったところを強調することでよりメリハリのあるピカッと光る基本構想に仕上げていくことができるのではないかと。学研都市の資源をまちづくりの目玉として活かしていくという部分は確かに見えにくいので、もし市民が非常に重要だと思っているのであれば、もう少しわかりやすく盛り込んでもいいのではないかと。

◎今日のご指摘は木津川市にとって意味のある重要なことであると思うの

で、今後、計画として磨き上げられる中で、言葉や考え方、発想をうまく盛り込めるよう工夫をしていただければと思う。

○将来都市構造の図がわかりにくい。市の計画の元になるゾーン分けだと思いが、市民にとっては、自分たちが住んでいるところはどのようなエリアかという認識が持ちにくい。「自助・共助・公助」という点からも、自分たちに何ができるのかというヒントになる図になり得るので、この小学校はどのようなゾーンであるとか、このゾーンはどのようなビジョンがあるということが分かりやすく知ることができれば、市民も考えて動きやすいだろう。

●総合計画においては将来都市構造図を示しており、具体の地域別構想は都市計画マスタープランで掲げている。総合計画の将来都市構造に応じて、地域別構想にはこういうまちづくりを形成していくことを示しており、同プランにおいて役割を担っていただきたいと考えている。

◎あまり詳しく書き始めると都市計画マスタープランの内容を全部掲載しなければいけないことになるので、各ゾーンの位置付けや役割などの詳細は都市計画マスタープランを見るしかないが、総合計画の中でもできる範囲でもう少し詳しく記載するという工夫をしていただければと思う。今日いただいたご意見やアドバイス、指摘事項を踏まえて、事務局で骨子案の修正をし、基本構想（案）につないでいただくこととする。

### (3) その他

- ・次回審議会開催日程について  
会議結果要旨のとおり。

### 3. 閉会

そ の 他  
特 記 事 項